

## 平成 26 年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

### 1. 研究の概要

プロジェクト名	「音楽アウトリーチ」による地域学校現場との互惠関係の構築		
プロジェクト期間	平成 26 年度		
申請代表者 (所属講座等)	原 尚志 (音楽教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	木村次宏 (音楽教育講座) 山中和佳子 (音楽教育講座)
取組方法・取組実績の概要	<p>【取組方法の概要】本研究は、宗像・福津地域の小学校現場で求められている音楽アウトリーチ活動を通して、本学教員及び学生の人的資源を最大限活用しながら、1) 児童の音楽経験の拡充・深化を目指すこと、2) 本学学生の音楽教育実践力の育成を図ること等を目的として行った。そこでは、宗像地区の小学校において、年間3回音楽アウトリーチ活動として出張演奏会を計画し、それらを企画・立案・運営するためのサイクルを確立するとともに、それぞれの学校教育現場での取り組みで得られた成果と課題について省察しながら、学校現場のニーズにより効果的に対応できる音楽アウトリーチ活動の検討を通して、大学と学校現場との有機的な互惠関係を構築することを試みた。</p> <p>具体的な研究内容として、3名の大学教員と8名の大学院1年生（適宜院2年生を含む）による実践現場に即したアウトリーチコンサート企画・運営と年間プログラムの構築を中心的課題とし、教員のアクションリサーチを通して①教員の支援のあり方、②アウトリーチの実践を通じて育つ音楽教育実践力、③年間実践プログラムの実証と課題について検討を行った。</p>		
研究成果の概要	<p>1. 1年間のアウトリーチ実践における本学3名の教員の支援は、①実施校との連絡、②授業内でのアウトリーチに関する講義・演習、学生による学校現場の実態把握の支援、③実際のアウトリーチ活動の見学補助と振り返り、④演奏プログラム作成及びリハーサル時の学生への助言、⑤実際の演奏、その他として活動に必要なレンタカーなどの手配及び送迎にまとめられた。その結果を受けた改善課題として、①学生によるPDCAのために各教員の授業内での連続性を図る必要があること、②学生の意識づけや意欲向上、責任感向上のために、学生とともに連絡及び訪問を行う必要があることを指摘した。</p> <p>2. 学生への聞き取りとアンケート調査から、学生たちがプログラムやMCで話す内容等を構成する際に、聴き手の特徴を踏まえることの重要性を感じとった様子や、他者の実践を観察することが自分の実践を省察する視点づくりになっていたことが読み取れた。これらのことから、他の学生と共に行ったこのアウトリーチ活動が、学生たちにとって、演奏力だけでなく聴き手に対するコミュニケーション力やコンサートの演出力、また自らの実践を振り返る省察力を育成する上で、有意義な活動であったことが明らかとなった。</p> <p>3. アウトリーチ活動を行った3つの学校現場からは、来年も実践の要望を受けた。他方、年間プログラムを実証する中で、1年間での大学院1年生全員に対する実践経験の確保、実践において教員が関わる範囲の明確化、時間的制約を踏まえた大学院の授業内容への導入といった課題が残った。その解決のためには、各教員の連携と学習内容の精選をさらに実施し、長期的な視点で学生の実践力の育成を見据える必要がある。さらに、学校音楽教育現場の多様なニーズに対応するために、聴き手が活動に加わる「参加型」演奏プログラムや、参加者と実践者が共に音楽を楽しむ合う「創造型」の演奏プログラムを行う環境作りが必要である。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック方願います。〕			
外部資金獲得申請 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ( )	研究成果の公表方法 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 学会 (○国内・国外) : 日本音楽教育学会 <input type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等 : <input type="checkbox"/> その他 :